

# 読みたい漫画本の検索支援システムの提案

学籍番号 048131 三山智史

(指導教員 速水 治夫 教授)

## 1.はじめに

近年、漫画はコンビニエンスストアや古本屋などでも販売されていて、幅広い年齢に読まれている。2006年度の日本国内出版物の売り上げでは、全体の36.7%にもおよんでおり、一年間に約一万点もの漫画を出版している計算になる。年齢層の要求に答えるように、作品の内容も多種多様化し、その量も膨大である。

しかし、量が膨大であるため、書店では人気や収益のある作品が売られ、人気の無い作品は置かれていないといった、取り揃えが少ない問題点がある。また、Web書店では「読みたい作品を探す」ではなく「買うために探す」ための検索機能しかなく、「悲しい物語を読みたい」などといった、おおまかな表現のみでは読みたい漫画を探せない問題点がある。

そこで、本研究ではAmazonWebサービスとデータベースの2つを使用することで、取り揃え不足を解消した。また、おおまかな表現はユーザによる漫画情報の蓄積を行った。これは他ユーザにとって「読みたい漫画であるかどうか」の判断基準となる。また検索に反映させることにより、検索支援も可能としている。これらの問題点の解消と、検索支援として実用性のあるシステムを提案した。

## 2.システム概要

本研究で提案した、読みたい漫画本の検索支援システムの概要を図2.1に示す。

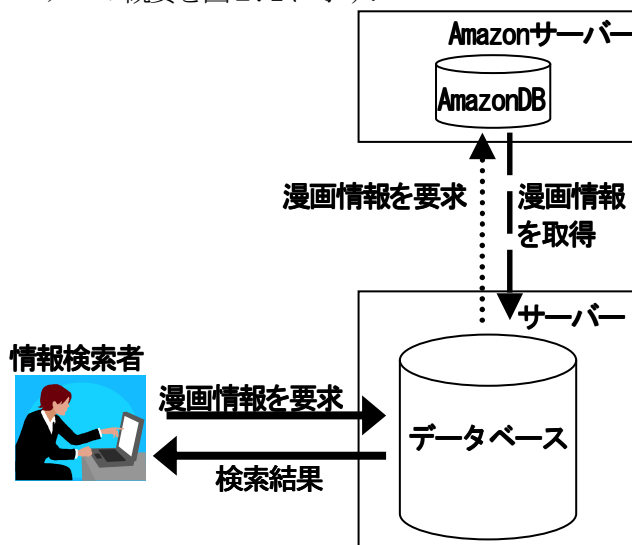


図2.1 システム概要

本システムは、AmazonWebサービスによって、Amazonにある検索機能や漫画の情報を取得、また利用している。そしてAmazonにはない、キーワードやレビューなどといった漫画の情報を格納しておくデータベースの2つによって構築されている。

情報検索者が読みたい漫画を検索するとき、AmazonWebサービスを利用するかどうか、システム上で判断する。利用しない場合は、データベースにある情報で検索結果を情報検索者に渡す。利用する場合はAmazonから求めていた情報を取得する。求めていた情報はデータベース内に追加され、AmazonWebサービスを利用しない場合の検索に使用される。情報検索者にはAmazonから取得した情報とデータベースにある情報を、検索結果として情報検索者に渡す。

## 3.評価

書店やWeb書店と本システムとの有用性の比較、本システムの操作性を評価するため、学生7名による5段階評価と記述のアンケート調査を行った。その結果、本システムの操作性に関しては高い評価を得られ、漫画の取り揃え不足の解消ができ、おおまかな表現で検索を行えるという評価を得た。

しかし、書店やWeb書店と本システムとの比較は多少良い程度の評価の差しか得られなかった。これは評価実験段階における、ユーザの手による情報の蓄積が少なかったことに原因があると思われる。

## 4.おわりに

本システムにより、漫画の取り揃えの少なさを解消することができ、検索情報をより多くすることができた。また検索のキーワード機能によって、おおまかな表現のみでも検索を行えた。

今後の課題として、読みたい漫画であるかどうか、判断基準の選択肢を広げるための情報追加と検索機能の向上を行う。また、操作性の改善や追加を行う。これにより、読みたい漫画本の検索支援システムの更なる向上と、検索支援として利便性をあげることができると考えられる。

## 参考文献

[1] 全国出版協会出版科学研究所:「2007出版指標 年報 出版売り上げ」全国出版協会出版科学研究所(2007):